

防災・減災に役立つ人の行動心理を探求

日本人のマナーの良さには定評がある。今回の東日本大震災においても、被災地の人々が略奪やパニックを起こさず秩序をもって行動したことを世界の人々は称賛した。

見た目の美しさを追求する化粧が、人の感情領域に与える影響について長年研究を続けている阿部恒之教授は、ふるまいの美しさという観点から東日本大震災の被災地域における人々の行動と心理状態の変遷に注目し、調査を行っている。

この調査は、例えばふだんのマナー意識と被災時に許容できる行為との間に関連があるかどうかを調べ、さらにその関

連性について国際比較を行おうとするものであり、過去の災害に関する調査の中でも類を見ない。また同時に、今回の体験を次世代に活かしてもらいたいと手をあげてくれた被災者の協力を得て、復興の過程における行動と心理状態の変化を継続的に記録してもらう定点観測も行っている。

「今、東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センターでは、地震や津波で被災した建物などのデータベースを進めている。このハード的な震災データベースと、社会現象面でのソフト的なデータベースを統合することによって、災害の全容が明らかになることを期待したい。同時に、災害の際にパニックを起こさない社会的要因を解明し、防災・減災につながるような社会の行動様式を導き出す手がかりを見つけない」と阿部教授は語る。



被災者を支援するボランティアスタッフに対し、カウンセリングの基礎を身につけてもらうための講習会を開催し、物心両面からの支援を提唱している。



本多明生さん、ジュターチップ・ウィワッターナー・バンツウォンさん、阿部教授(写真左から)。文学博士の本多さんは、震災直後から地元新聞の記事に全て目を通しキーワードを導き出し、時間の経過と共にどのように変化するかを研究している。タイから留学したジュターチップさんは、博士課程前期を修了して後期課程に進学し、タイと日本の防災における行動の違いについて研究している。

文学研究科 人間科学専攻 心理学講座  
心理学専攻分野 教授

阿部 恒之 ABE, Tsuneyuki

1961年生まれ、新潟県出身。東北大学大学院文学研究科人間科学専攻博士課程修了。博士(文学)。資生堂ビューティサイエンス研究所主任研究員、東北大学大学院文学研究科心理学講座助教授・准教授を経て2010年より現職。『感情心理学研究』編集委員長(2010年～)。

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/psychology/index-j.html>  
[http://www.sal.tohoku.ac.jp/staff/04030103\\_abe.html](http://www.sal.tohoku.ac.jp/staff/04030103_abe.html)



地域保健衛生システムの復興を支援

東日本大震災直後、平野かよ子教授は大学病院看護部と連携しながら、緊急医療支援派遣チームへの参画、看護部の支援、周辺の避難所への健康相談などを行った。また、他大学、団体から寄せられる情報や災害支援に役立つ知恵を共有化するためのネットワーク『地域貢献プロジェクト』も立ち上げた。

「サバイバーズ・ギルトだったのかもしれないけれど、とりあえず私たちにできることをしようということで、場当たり的にできることは全てやった。しかし、時間が経つにつれ、大学ができる地域貢献のあり方を考えるようになり、活動の方向性を変えた」

今回の震災では、特に津波による被災地の保健衛生システムが大きなダメージを受けた。中でも石巻市の被害が深刻だったことから、向こう3年を目処に、保健衛生システムの復興に向けて取り組むため、石巻市と協定書を取り交わし支援に乗り出した。

また、医学系研究科では、石巻市を含む宮城県内における各被災地域の保健衛生システムの復興に向けた支援活動を行う『地域保健支援センター』を設置。今後、地域保健に係る8つの課題\*を踏まえ、住民ニーズの調査を実施。問題・課題を抽出して、提言や計画づくり、保健衛生行政全般に対する助言など行っていく。

「行政の復興はさほど時間はかからないと思うが、地域住民がもとの暮らしを取り戻すためには、長い時間を要するだろう。地域保健支援センターの活動も、また長い道のりになるかもしれない」と平野教授は語った。



保健学専攻看護学コースでは学部生や大学院生をはじめ、他大学からの応援学生などを県内の被災地に送り込み、医療支援、避難所の健康相談、全戸訪問調査(石巻市)、学生教員ボランティアの引率などを行った。

円滑な保健師の活動を支援するため、新型インフルエンザ対応マニュアル(平成21年度)や、暴力防止マニュアルの作成(平成22年度)を主導し、全国の保健師や関係機関などに配布した。



厚生労働省保健指導室長時代(平成5年～)、自助努力でできない課題を近隣あるいは広域的な公助により解決する[全国からの保健師の派遣支援システム]を構築。また、各自治体、職能団体による『災害時保健師活動マニュアル』の作成に協力し、災害時における保健活動の環境整備に貢献した。

医学系研究科 看護学専攻  
基礎・健康開発看護学講座  
国際看護管理学分野 教授

平野 かよ子 HIRANO, Kayoko

1948年生まれ、神奈川県出身。東洋大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士(社会学)。厚生省健康局保健指導官、国立保健医療科学院公衆衛生看護部長を経て、2008年より現職。2010年キャリアパス支援室長、2011年地域保健支援センター副センター長。



\*…8つの課題＝地域調査、保健指導、感染予防、精神保健、母子保健、運動指導、栄養指導、介護予防